

飛翔 21世紀



発行所 飯田市竜丘公民館
 編集人 竜丘公民館広報委員会
 印刷所 龍共印刷株式会社
 飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,797人
男子	3,344人
女子	3,453人
世帯数	2,079戸
(13年1月末現在)	

文化尊重の気運 新公民館に継ぐ

竜丘公民館長 木下陸奥



二十一世紀が幕開けした。百年を区切りとする世紀は、歴史上時代を展望する目安となっています。二十世紀は、明治の後半から、大正、昭和の時代でした。私たちの祖父母から父母と私たちにつながって来ました。その大半は昭和という時代でした。

私たちの身辺にある衣食住や諸々の文化からその頃の様子を知ることが出来ます。歴史は絶え間ない流れです。だから、現在にたくさんのものが継承されており、恩恵や影響も受けております。それらをしっかりと受け止め、これからの時代を創造していくことが私たちの務めだと思います。そうした文化の継承を足場にして、二十一世紀を展望し、努力していきたいものです。竜丘の地域も先人は豊かな文化を創造し、産業を振興させて地域づくりに取り組んで来ました。

過日、郷土を離れ東京で活躍されている方々の幾人かと話をする機会がありました。みなさんが「竜丘」と言うことばについて郷愁と愛着を抱いていることを知りました。

私は、いつまでも竜丘のよさを発展して行かなければならないと思えました。みなさんは、竜丘の自然と

教育文化にかかわった事柄を語って来ました。二十世紀の前半から地域に盛り上がりつつあった青年層を中心とした自由思想、文化文芸活動、そして小学校中心とした創造性を啓発した自由教育などの流れも語って来ました。

「事実、私のからだにはその竜丘の教育文化の風土性があることで、こうして活躍できたのではないかと思っている」と。

★ ★ ★
 いよいよ待望の新しい公民館(生涯学習センター)が、四月から発足できる運びになりました。

二十一世紀の幕明けと期を一にしたことは、非常に大きな意義があります。この新公民館は、多方面の協力と援助をいただき、施設・

七色の虹色コマづくり挑戦

おひさまぐんこ クリスマス会

去る十二月九日に、竜丘公民館に於いて、おひさまぐんこのクリスマス会が、開かれました。

この会は、毎年行われており、この日を楽しみに行っている子どもたちも多いとのことでした。

今年、まず、折り紙を使ったコマづくりをしました。紙を七色組み合わせることで完成ですが、初めは折り方を間違えたりと、とまどいぎみでした。年少の子どもたちには難しそうでしたが、年上の子や大人の人の

手伝ってもらいながら完成させました。コマづくりの後、会場を移しました。そこには、役員の方が丹精こめて作ったクリスマスツリーがあり、クリスマスらしい雰囲気が一層盛り上がってきます。

そこで、ジャンボ紙芝居を観劇した後、いよいよお待ちかねのお菓子の家づくりです。各自で食パンとクリームを基に、チーズ、クッキー、チョコレット、するめなどをのせて、オリジナルケーキをつくりました。

小笠原二郎長清が観音様を守護神として祈禱を受け、美濃大井の木曾川の渡しを合戦で大勝利をして大伽藍を再建、長清の「長石和尚の石」をとり、「長石寺」とされました。

長石寺本堂は、正面に「子持ち龍、その上に鶴にのる仙人の舞」、昇り龍、降龍の上に牡丹、柱に「獅子、象」の彫刻、屋根に「立川流鬼瓦、宝生玉と龍」があるなど、立川流建築、彫刻の特徴が顕著で規模も大きく技術的、学術的価値も高いと、市教育委員会により「飯田市文化財」に指定されている程です。一八七〇年(明治三年)に火災に遭ったが、名立立川和四郎の直系により再建されているそうです。初代の立川和四郎と第五十八世住職周賢は、同じ名古屋出身でもあり、長石寺と立川一門とは深い係わりがあるそうです。

立川和四郎は、寺院建築彫刻などでは有名な方で、

演が始められました。一三〇〇年程前、養老元年(七〇七年)行基菩薩が松川入より良材を求め観音様を刻み観音堂を造り観音寺とし、天平四年聖武天皇が観音様の御利益を耳にされ伽藍を建立しました。

去る十二月六日、時又の長石寺に於いて「竜丘の歴史に触れてみよう」をテーマに第二十二回竜丘地区市民大学講座第三講が開かれました。通常ですと、竜丘公民館大会議室で行われるのですが、今回は、ご住職

市民大学講座 第三講

竜丘の歴史 “長石寺” を学ぶ

のことは、長石寺の歴史に於いて「竜丘の歴史に触れてみよう」をテーマに第二十二回竜丘地区市民大学講座第三講が開かれました。通常ですと、竜丘公民館大会議室で行われるのですが、今回は、ご住職

のことは、長石寺の歴史に於いて「竜丘の歴史に触れてみよう」をテーマに第二十二回竜丘地区市民大学講座第三講が開かれました。通常ですと、竜丘公民館大会議室で行われるのですが、今回は、ご住職

とてもかわいらしいケーキから、ちゃんこ鍋のような豪快なケーキと、それぞれ手作りの温かみのあるクリスマス会でした。



「後悔先に立たず」と言う諺がある。事件を起こしてから、「大変な事をしてしまった」「申しわけない事をした」など、反省の弁が聞かれるが、物事を行なう前に善悪の区別がつかないのかと思う。時代が変わっても、善悪の区別をする心は失いたくないものである。子育てにしても、ノイローゼから、子育てを放棄したり、虐待をしてしまったりと、子どもたちがおかれる悲しい現実が、目立つようになってきた。昔も、子育てを上手くできない親はいたが、近所の方々の会話などから良い方向に進めたりと、地域全体で子育てがされていた。しかし、現代は核家族化が進み、自分の殻に入ってしまう傾向があるので、応用がきかなくなっているかもしれない。

この辺りでは三穂の光明寺、鼎の愛宕神社、阿島の安養寺などがあげられる。本堂は愛知県の豊川稲荷とほぼ同じで、それを縮小した造りになっているそうです。建物、彫刻のすばらしさを始めとし、その建立の歴史を描いた掛け軸も見せて頂きました。おっしゃって



立川和四郎は、寺院建築彫刻などでは有名な方で、

雪の残る寒い日 心は暖かく

ニューイヤークンサート



二十一世紀最初の事業、第六回ニューイヤークンサートが、今年で最後となる現竜丘公民館を会場に開かれました。出演団体の皆さんは、日頃の成果を発表し大いに盛り上がりました。

去る一月十三日午後、竜丘公民館で第六回を迎える新年恒例の集い「ニューイヤークンサート」が行われました。

当日の一月十三日は、足元に雪の残る寒い一日となりましたが、開会の一時三十分には、会場の大会議室はあふれんばかりの人々で埋まり、熱気に包まれました。

公民館長の挨拶の後、出演十四団体のトップをきいて、竜丘小学校の子どもたちと指導されている先生方による「竜丘Gストリングス」による大正琴の素晴らしい音色の演奏から始まりまし

今回は、地元竜丘小学校の子どもたちが数多く参加しました。

「合唱クラブ」は、練習不足で心配との挨拶でしたが演奏が始まると全員が一つになり自信溢れる歌を歌ってくれました。

「五年二組の有志」によるリコーダー演奏もありました。

元竜丘小学校の子どもたちが数多く参加しました。

「合唱クラブ」は、練習不足で心配との挨拶でしたが演奏が始まると全員が一つになり自信溢れる歌を歌ってくれました。

「五年二組の有志」によるリコーダー演奏もありました。

奏もありました。リコーダーを三年生から習い始め今年で三年目、コンサート出演も常連になり、休み時間を使って練習した成果を発表してくれました。「大人の学校ハーモニカクラブ」と「ハンドベルを楽しむ会」の演奏は、とても意気の合った素晴らしい演奏でした。

前半の出演者の五番目に「KYOICHI」という名の出演者がありました。竜丘の支所長の木下巨一さん、ピアノを弾きながら自分で作曲した歌の弾き語り「コカリナの演奏と、普段のネクタイ姿からは想像できない意外な一面を見せていただき、会場からは、大きな拍手で声援があちこちであがっていました。

出演者の多彩な演奏を聴いていると、あっという間に一時間が経ち、少しの休憩をはさんで後半へと入っていききました。

後半は、「中島雑貨店」による本格的なフォークソングの演奏で幕が開き、「創造館作曲研究会」と「駄科ハーモニカクラブ」の演奏では、会場も演奏者

の曲に合わせる曲に合わせ、あちらこちらで歌を口ずさむ姿が見られました。

ニューイヤークンサート常連の「ゆうがお」は、龍江の民話をもとに創った曲。豊後様を歌ってくれました。

「維(ゆい)の会有志」による和琴の演奏は、おちついた、わらべ歌の演奏でした。そして「鈴岡太鼓」は中学生、小学生を中心とした演奏者が、元気に勇壮な太鼓の演奏を聴かせてくれました。

フィナーレは、観客と出演者全員で、「ふるさと」と「四季の歌」の二曲の大合唱で、会場がいついとも盛り上げていきたいものです。



育成会 あいさつ運動

「健全な子どもが育つ地域づくりに取り組もう」の主旨のもと、青少年の健全育成を願う諸団体が協力し、「あいさつ・声かけ運動」に取り組みました。

十月を強調月間として運動をすすめる、育成会では標語を募集しました。

応募いただいた多くの作品の中から選考の結果次の通りになりました。

最優秀賞
 ところがね ばかばか
 するよ あいさつは
 竜丘小三年 中平沙希
 「いって来ます。」
 道が明るくなりました
 竜丘小五年 平澤 萌

優秀賞
 緑中二年 原麻奈美
 「あいさつ」は 父さん
 母さんあなたから
 一般時又 原田富久美
 入選(所属氏名のみ)
 林 ゆういち(小一)

佳作
 。はつきりと あいさつ
 できる おともだち
 竜丘小一年 今村りな
 。あいさつは 心を
 とどける おくり物
 竜丘小六年 斎藤 愛
 。あいさつで みんなの
 笑顔 広げよう
 笑顔 広げよう
 緑中一年 中田 悠
 。あいさつは あしたの
 朝も こだまする
 緑中一年 中島あかり
 。たんば笑顔で
 あいさつを
 緑中二年 原麻奈美
 「あいさつ」は 父さん
 母さんあなたから
 一般時又 原田富久美
 入選(所属氏名のみ)
 林 ゆういち(小一)

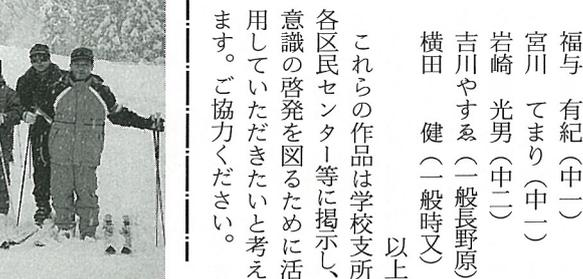
- 塩沢 かな(小二)
- 中島 かな(小二)
- 塩沢 雄大(小三)
- 下平 ちあき(小三)
- 藤本 直宏(小四)
- 榎 玄成(小四)
- 塚平 愛美(小四)
- 松下 蛭(小五)
- 宮沢 よし子(小五)
- 藤本 敬子(小六)
- 原 奈津美(小六)
- 上松 明日香(小六)
- 金子 佐和(小六)
- 上野 よしえ(小六)
- 藤本 幸孝(中一)
- 林 瑠美(中一)
- 福与 有紀(中一)
- 宮川 てまり(中一)
- 岩崎 光男(中二)
- 吉川やする(一般長野原)
- 横田 健(一般時又)

大雪！大雪！の親子スキーツアー

去る二月二十七日に、「親子スキーツアー」が行われました。この企画は春秋二回の親子ふれあいハイキングと同様に、親子で気軽に参加し、ふれあうことのできる企画で、今回は大人八名、子ども十三名の計二十一名の参加者がありました。

当日の朝は、前夜からの雪が降り続いていましたが、計画どおり午前七時に竜丘小学校を出発し、例年同様蓼科高原のエコーパレススキー場を目指しました。しかし、飯田でも観測史上最

高となる五十六センチの積雪を記録するような大雪となり、再三の計画変更を余儀なくされました。中央道に入ったものの、大雪のため伊北インターから先が全面通行止となり、小黒川パーキングエリアで協議の結果、エコーパレススキー場へ向かうのを断念し、伊那スキーリゾートへ目的地を変更し、中央道を伊那インターで降りて向かいました。しかし、スキー場へ目の坂道で前を行くバスが横滑りをし、道をふさいでしまったため、再度計画を変更、駒ヶ根高原スキー場へ向かい、出発から約四時間後の午前十一時に現地に到着しました。スキー場でも雪が降り止むことはなく、雪まみれになりながら、長旅(?)の疲れも見せずに、親子で思い思いにスキーを楽しみました。今は小学校三年生か



青年の主張

私は平成十三年の一月七日に成人式を迎えました。そして、その成人式の実行委員になり、式に向けて様々な活動をしてきました。その活動の中で最も記憶に残っていることは、記念誌の取材で、沖繩へ行って来たことです。沖繩は戦争の傷跡が未だに、生々しく、色濃く、奥深く残されている所です。私のいた取材班は、沖繩の戦跡見学を通して、平和を考えようとしていました。もちろんそれだけではありませんが、その事がメ

インとなってしまいました。私は沖繩へ行って、戦争や平和について、真剣に考える時間を持つたことをうれしく思います。

成人になるにあたって、自分のことばかりでなく、

かし、ものすごく緊張したのを覚えています。とても良い経験ができたと思っています。また、私もこれやと一人前になれました。実際には、二十才にはなっていないですが、気持ちの面で、今年からは違います。それともう一切の甘えも許されません。社会人としての自覚・責任を持つた立派な大人になれるように、頑張っていきたいと思っています。成人式の役員の仕事を通じて、感じたことや学んだこと忘れないように心に刻んでおきたいと思えます。

最後に、一人の社会人として、人生のスタートラインに立てたと思っています。私は高校を卒業して、すぐに働きました。でも、十八才は社会の中では半人前と

社会人としてのスタートラインに立って

桐林 林 拓也



戦争や平和といった、日頃意識してない部分に、自分の目を向けていく事も、非常に重要だと思います。

成人式自体は、作り手に回りましたから、思う所は特にありませんでした。し



昨年、今年と参加者が減少しているのが、公民館では親子スキーツアーを今後継続していくか検討をしています。ただ、親子を基調とした企画は今後も続けていきたいと考えています。是非積極的な参加をお願いします。